

第2回 観光プロモーションに関する分科会 次第

日 時 : 令和7年8月5日(火) 午前10時00分

場 所 : 荒川区役所5階 大会議室

議 題 : 委員からの事業提案

1 開 会

2 議題 「委員からの事業提案」

（1）資料説明

（2）意見交換

3 その他の事項

4 閉会

(配付資料)

・資料1 提案書 ※

・資料2 観光プロモーション分科会の提示案について

※資料1は、著作権の関係で掲載しておりません。

観光プロモーション分科会の提示案について

番号	タイトル	区の見解	備考
1	荒川ユナイトーク	<ul style="list-style-type: none"> ・区民自らが自分たちの住むまちの魅力をスピーチする取組であり、区民が主体的に参画でき、シビックプライドの醸成にもつながる。 ・観光視点だけでなく、シティプロモーションの視点から事業検討するとさらに良いものとなる。 <p>【確認事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象は区民を想定か。 ・観光プロモーション・産業経済にどのように関連づくことを想定しているか。 	シビックプライド醸成の観点からシティプロモーションと関連あり
2	荒川スナック物語	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでにない発想であり区の魅力的な地域資源の一つとなる。 ・ただし、スナックは風営法の範疇であり、区主体の事業展開はハードルが高いと考えられる。 ・民間主導での取組であれば、スムーズな事業展開が可能。 	
3	ARAKAWA CULTURE & FUTURE LAB ARAKAWA カルチャースクール～子どもたちの未来デザイン塾～	<ul style="list-style-type: none"> ・次代の荒川を担う子供達が自らが住むまちの魅力を発信するとともに、観光プロモーターとしての発掘も可能であり、実現も可能性も高い事業案である。 ・区だけでなく、地域団体等関係者を巻き込んでいくのが効果的であると考える。 ・年6回開催の参加者の確保はハードルが高いため、回数を含めた実施内容について更なる検討が必要と考える。 	シティプロモーションと関連あり
4	荒川きれいプロジェクト ARAKARA CLEAN & WELCOME INITIATIVE	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレという観点で観光やまちづくりを進める取組であり、斬新な事業案である。 	都立公園・交通事業者などの管理者との調整が必要
5	荒川異文化ステイ ARAKAWA CULTURE STAY PROJECT	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設の少ない荒川区における空家活用の事業案であり、地域課題となっている空家活用する観点は地域ニーズには合致している。 ・しかし、区での民泊に係る強い規制、適当な場所の確保、空き家活用の方法、実施主体など複数の課題が考えられ、様々な観点からの検討が必要となり、その時間も長期間を要する。 	
6	荒川マネー～地域で稼ぎ、地域で使う、新しい荒川経済圏～ARAKAWA LOCAL MONEY PROJECT	<ul style="list-style-type: none"> ・地域通貨を活用した、地域経済循環が可能となる事業案である。 ・地域通貨の運営経費に膨大なコストを要することが課題。（既に実施している他自治体で数億円かかると聞いている（開発費は別）。）。 ・また、関係する部署や機関が多く存在するため、中長期的な視点で検討を進めていく必要がある。 	決済事業者・金融機関・商連との調整が必要
7	荒川鉄道都市伝説～消えた駅と3つのヒミツ～	<ul style="list-style-type: none"> ・荒川区には多くの鉄道事業者との連携の実績があり、こうした資源を活用した取組であり、効果的であると考えている。 ・区で過去に謎解きは実施したこともあるため、実施は十分に可能と考える。 	交通事業者（JR東日本・JR貨物・都交通局など）と関連あり
8	荒川遊園夜市	<ul style="list-style-type: none"> ・荒川遊園と区内商店等との連携により、地域経済の活性化につながる事業である。 ・令和7年度は、年内開園日数319回のうち、夜間開園日数は207回である。園内では既存の物販事業者があることから、区内事業者の参入について調整が必要となる。 	既存の売店事業者との調整が必要
9	あらかわリンクス	<ul style="list-style-type: none"> ・区内事業者の横の連携、ネットワークを強化していくことは、区としても今後の課題と認識している。 ・手法となるオンラインコミュニティの中に区も入ることについて、セキュリティ等の関係で支障はないのかなど、オンライン上でコミュニティ構築について調整する必要がある。 	
10	ノスタルジック・アラカワ Nostalgic Arakawa	<ul style="list-style-type: none"> ・時機を捉えた、事業案であり、区としても積極的に進めていく必要がある。 ・事業の具体的な実施計画の検討を進みたい。 ・マナーブックは今年度中に実施することも検討したい。 	